



図書館便り 10月号



東峰学園（中学部）梶原 弥生

だんだんと朝晩が涼しく感じられるようになってきました。秋は気候が良く、過ごしやすい季節です。また、日が暮れるのが早く、夜が長く感じられることから読書をするのにふさわしいとされています。この秋、あなたはどんな本を読みますか？

～ 秋の読書週間～

秋の読書週間は、毎年「文化の日」をはさんだ10月27日から11月9日までの2週間です。戦後、「読書の力で平和な文化国家をつくろう」と出版社、書店、公共図書館、マスコミが協力し始められました。

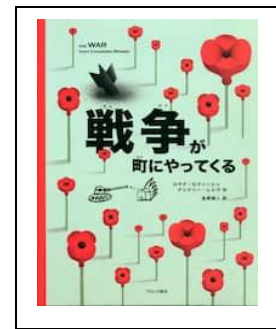
今年で77回目となる読書週間のテーマは「私のペースでしおりは進む」です。図書館には話題の小説、映画やドラマの原作本など楽しく読める本がそろっています。秋の夜長は、読書を楽しみませんか。



戦争と平和について考える

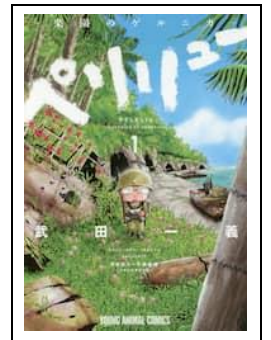
「戦争が町にやってくる」(ロマナ・ロマネーシン、アンドリー・レシヴ/作)

作品の舞台は、平和な架空の町・ロンドです。主人公のダーンカは、ガラスのように透き通った体を持っています。町は花であふれ、人々は歌を楽しんでいます。そんな日常が突然、変わります。「戦争」がやってきたのです。



「ペリリュー 楽園のゲルニカ」(武田一義/作)

ペリリューは、南太平洋パラオ諸島にある小さな島です。太平洋戦争末期、日米両軍の壮絶な戦場となりました。主人公は漫画家を夢見るちょっと気弱な日本兵・田丸です。絵の腕を見込まれて任された仕事は、亡くなった戦友の死を「最後の勇姿」として描き立てて遺族に送ることでした。



「核兵器をなくすと世界が決めた日」(川崎哲/監修)

2017年ノーベル平和賞を受賞したICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）を中心に、世界の核被害者たちの声と、平和を願う人々との連帯が生んだ核兵器禁止条約。その誕生の物語です。

できないと思われていたことが、みんなの力で実現したので



「かげふみ」(朽木祥/作)

小学5年生の拓海は夏休み、広島のおばあちゃんの家に行きました。雨の日、児童館の図書室で澄ちゃんという女の子に出会います。澄ちゃんは、「影の話」の本を探していました。1945年8月6日のあの朝と現在をつなぐ、一人の少女と「ぼく」の物語です。



新刊案内

「赤いボタン」(岡本央/写真・文)

長崎市爆心地公園の土の中から見つかった小さな頭の骨と赤いボタン。持ち主は原爆で亡くなった女の子でした。

竹下芙美さんは、この地域の近くをまわっては、遺骨や遺品を拾い集めてきました。



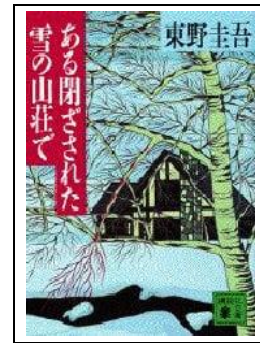
「生まれかわるヒロシマの折り鶴」(佐藤真澄/作)

広島平和記念公園に「原爆の子の像」があります。モデルとなった佐々木禎子さんは、12歳で白血病になり、亡くなるまで千羽鶴を折り続けました。「原爆の子の像」には、世界中から千羽鶴がささげられます。折り鶴は、飾られた後に焼却されていましたが、再生紙へよみがえらせる事業が始まりました。



「ある閉ざされた雪の山荘で」(東野圭吾/著)

早春の乗鞍高原のペンションに集まったのは、オーディションに合格した男女7名。これから舞台稽古が始まります。豪雪に襲われ孤立した山荘での殺人舞台劇です。ですが現実一人また一人と殺される事件が起こります。なにが本場で、なにが演技なのか。あなたには分かりますか。映画化され、この冬公開です。



「文通小説」(眞島めいり/作)

「あたし、もうすぐ引っ越すんだ」3月24日中学2年生として登校した最後の日、通知表を受け取って帰っていた道の途中でいきなり貴緒きおが言い出した。いつもとまったく変わらない調子で・・・。



「きみの話を聞かせてくれよ」(村上雅郁/作)

新船中学校を舞台に生徒たちのもやもやした気持ちやずっと抱えてきた秘密を描いた作品です。不思議な存在である黒野君と関わることで、自分の感情を整理して一歩前に踏み出します。黒野君の言葉が、心に響きます。



「名探偵ポアロ オリент急行の殺人」(アガサ・クリスティー/作)

世界一の名探偵ポアロは、豪華寝台列車オリент急行に乗り込みました。車内にはさまざまな国籍・階級の人々。途中列車が大雪に閉ざされ進めなくなってしまいました。そして金持ちの男が殺されてしまい・・・。犯人は車内の誰かにちがいません。

今こそ、名探偵ポアロの出番です。



「名探偵ポアロ そして誰もいなくなった」(アガサ・クリスティー/作)

